

# 最優秀賞受賞!



# 開成校新聞

開成中等新聞局  
発行責任者 宮崎  
制作者  
阿部 小笠原  
沼津 松原

## 第4回 全国高校生 プレゼン甲子園



## 文部科学大臣賞

北海道・東北ブロック代表  
市立札幌開成中等教育学校  
**チームユナイト** (北海道)



1/365コマ  
一階大階段前にハロウインの装飾が施されていた。みんなハロウインを楽しんでいた。

8月24日福井県福井市のプリンホールで行われた「第四回全国高校生プレゼン甲子園」に北海道・東北ブロック代表で参加した6年生の家田有彩さん、島田ひよりさん、天本碧さんが最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞した。

プレゼン甲子園は、一つの課題について高校生がプレゼンテーションを行う大会で、今回のテーマは「We11-beingな社会を作るために私たちができること」であった。5分間のプレゼンと10分間の質疑応答で審査され、各地区の代表計10チームの中から選考が行われた。一次予選は5月24日から6月5日にかけて動画審査で実施された。今回は、北海道・東北ブロックで3校までに絞られた。

さらに、7月6日に二次審査が行われ、審査員の方からの質疑応答によって、最終的に1校まで絞られた。

3人は「インクルーシブ社会で実現する「We11-being」と題して発表を行った。プレゼンの内容は、現在、身体もしくは精神障がいを患っている人のために作られたヘルプマークの認知度や利用実態に関する問題があるため、「ユナイトパス」という新しいカードを普及させることを提言するものであった。

審査委員長の前田さんは受賞後の講評で「チームユナイトのプレゼンテーションは審査員一同凄かったね、という言葉が出るほど素晴らしかったです。5分間のプレゼンと10分間の質疑応答を合わせた15分という時間を一番素敵なものにしていて、それはスライド、話し方、質疑応答のすべてを3人が3人の力で作り上げていた時間でした。こんな素敵な発表が見せてもらえて嬉しく思います」と賛辞を送った。

表彰式の3人の受賞スピーチでは「体育の授業から始まった活動を素晴らしい会場で発表できたことに感謝します。受賞したことで開成での6年間の学びは意味があったのだと深く実感することができました。この学びをこれからの生活にも活かしていきたいと思います」と笑顔で語った。

# 「社会の不便さを解決したくて」



▲質疑応答を受ける(左から)家田さん、島田さん、天本さん(公式Youtubeより)

「第四回全国プレゼン甲子園」にて最高位賞である最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞した本校の家田有彩さん、島田ひよりさん、天本碧さんの3人に受賞した時の様子について尋ねた。

「どのような経緯でテーマ設定をしたのですか。」

「体育の授業の一環として自分たちでスポーツを作ることも健常者も共に楽しめるスポーツとはなにか、と考えたことがきっかけとなりました。」

「なぜ『ユナイトパス』という新たなカードを提言したのですか。」

「体験でヘルプマークに対する不便さを感じていたからです。そのためヘルプマークと併用することで課題を解決することができると新しいツールがないかと考え、作成するに至りました。」

「実際の体験でヘルプマークに対する不便さを感じていたからです。そのためヘルプマークと併用することで課題を解決することができると新しいツールがないかと考え、作成するに至りました。」

「プレゼン甲子園に挑戦した感想を教えてください。」

「プレゼンと別に参加者同士の交流会があったのですが、そこで他校の生徒や審査員の方と交流できたのが楽しかったです。」

「取り組んでみて困難は何でしたか。」

「3人でやることによる認識の違いや意見のすり合わせが大変でした。なにより受験勉強との両立が難しく、勉強や朝夕のすき間時間で頑張っていました。また、質疑応答で何が問われるかわからない状態の中、返答を考えておくことが大変でした。実際に質疑応答に使うスライドは30枚分用意しました。」

「後輩に向けてコメントはありますか。」

「6年間の開成の学びを実感できるし、振り返ることが出来ます。プレゼン甲子園は開成での学びをしっかりと活かすことができ、ぜひ挑戦してみたいです。また、この企画に興味をもってくれた人と普及のために共に進めていきたいです。」

## 開成独自の強みが活きた

プレゼン甲子園の引率として三人に同行した今野先生に三人の様子や今回のプレゼンについてインタビューを行った。

今野先生は「(開成で学んだ)

ブックレット、成果物、課題解決といった提出物の点と点が線となり審査員にも突き刺さったと感じる。また、た体育と社会を結びつけるという開成の学びを見せることができたのではないかと「思う」と述べた。また、プレゼンに向けた三人の姿勢については「本番前は会場前の廊下で本番さながらの準備をしており、とても素晴らしかった」と振り返った。全体を通じた感想を尋ねると、「三人のプレゼンを聞き終わった時点で圧巻だった。会場全体がプレゼンに引き込まれていたことを感じた」と語った。

### 委員のひとりごと

第四回全国高校生プレゼン甲子園で優勝されたチームユナイトの皆さん、最優秀賞受賞おめでとうございます。私たちも先輩方のようなプレゼンテーションができるように頑張りたいと思いました。他のチームの発表も聞くことができるので、気になった方はぜひ横の糸コードから実際の発表を聞いてみてください。◆

大会の様子は  
こちらから



インクルーシブとは、ここでは、多様なアイデンティティを持つ人が公平に参加できる状態であり、「すべてを包括する、包み込む」という意味でもある。障害の有無や性別、人種など、私たちに同じ人間であっても様々な違いがある。このような違いを認め合い、すべての人がお互いの人権と尊厳を尊重しあ

## インクルーシブ Well-being って何?

いながら生きていく社会をインクルーシブ社会という。Well-beingとは、幸せに生きるための要素を十分に含んだ状態のことと定義されている。Well(よい)と、Being(状態)が組み合わさった言葉で、「よく在る」「よく居る」状態、心身ともに満たされた状態であることを表す概念である。



▼インタビューを受ける今野先生